

私のテーマティック郵趣戦略（補論）

大沼幸雄

当研究会のミニペックス会期に合わせ 3 月 31 日に「私のテーマティック郵趣戦略」と題してセミナーを開催いたしました。以下はその時の講演内容です。

最初に、戦略、情報収集、現状分析、戦術につき要約をお話ししましたが、ここではその部分は省略させて頂きました。詳しい内容は、スタンペディア誌の「Philatelic Journal」誌(2016 年号)を参照願います。なお同様の記事は、下記の私のホームページにも掲載しております。

<http://beethoven-philately.com/index.html>

ここでは、上記論文を発展させた補論で、次の 4 点につき説明します。

第一点：重要度の概念

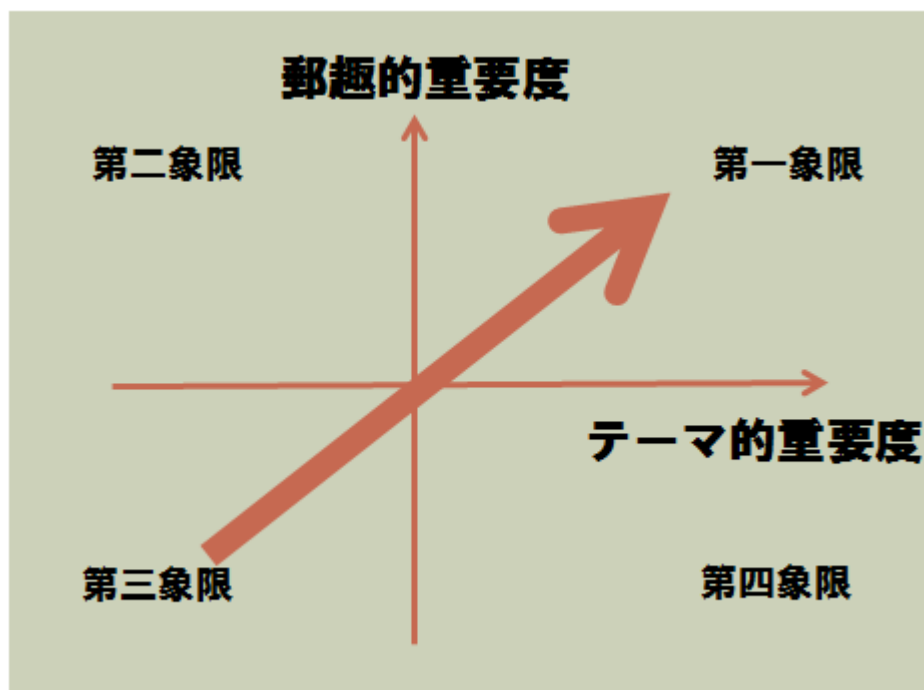
第二点：意外性について

第三点：希少度と価格

第四点：失敗事例

I) 重要度の概念

テーマティックの場合のマテリアルの重要度は、郵趣的重要度とテーマ的重要度の二つの側面がありこの両面を備えたものを選ばねばなりません。これを分かり易く下記のダイアグラムで説明します。



第一図：重要度の概念

郵趣的重要度は、真正度＋稀少度です。真正度とは、郵趣家向けに作られたもの（例：FDC、郵趣家目当てに発行する国“dubious countries”の発行する切手など）ではなく、自然な形で郵送に用いられたものを意味します。換言すると、“人工的（artificial）ではない”という趣旨です。また稀少度は、稀少なマテリアルを意味しますが、詳しくは後述します。第一図で、縦軸は郵趣的重要度をあらわし矢印の方向にその値が高くなります。

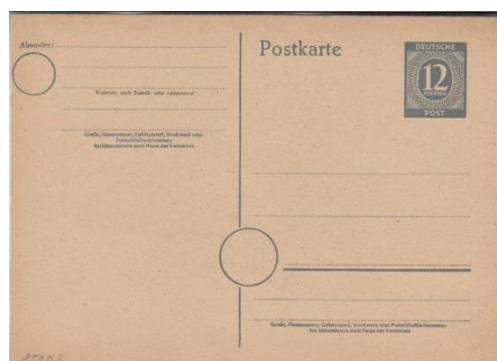
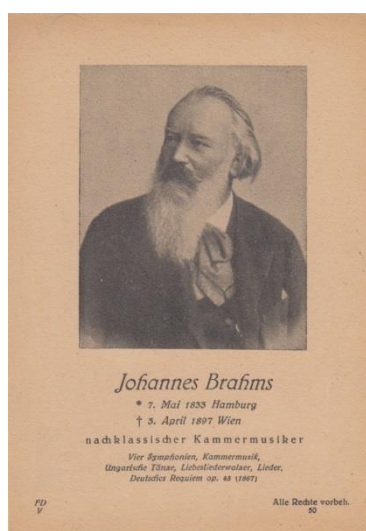
またテーマ的重要度とは、テーマとの関連度を意味します。例えば人物に関するものであれば、その人物の肖像画、発行目的がその人物に直接的に関係があるもの—例えば生誕あるいは没後の記念年—などは関連度が直接的です。しかし“意外性”の項で後述しますが、関連度が一見無関係であっても、その関係に説得力があれば、むしろより効果的な場合があります。横軸は、テーマ的重要度を表し、矢印の方向に重要度が上がります。

あらためて第一図をご覧ください。ここで太字の斜線が、矢印の方向に行けば行くほど適切なマテリアルとなります。テーマティックで用いるマテリアルは第一象限に入るものに限られます。一方、オープンでは第一と第四象限に入るマテリアルを用いる事が出来ます。

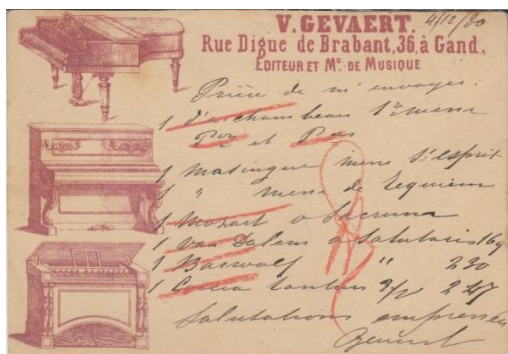
テーマティック＝第一象限

オープン＝第一象限＋第四象限

マテリアルを選ぶとき、審査に際してマテリアルの妥当性を判定する時などには、上記を念頭に入れると役立ちます。この補論では、モノの考え方は提供できますが、現実に個別のマテリアルの良し悪しを判定するのは、一筋縄ではいきません。これは数多くの具体的なケースにぶつかって他人の意見に耳を傾け、自分で考えて経験を積むことが大切です。



例 1）レピカージュ（ブラームス肖像）



例 2) : レピ[°]カージュ (ピ[°]アノ)



例3) 米国広告付きカバー (ベートーヴェン・オルガン)



例 4) フォト・エッセイ (ヘンデル)

例 5) 郵趣家向け発行の切手

左) ゲーテとベートーヴェンの邂逅

右)「第九」初演のソプラノ歌手ゾンターク



例 6) オーストリア郵政発行の P スタンプ

左) ウォーホル画くベートーヴェン、右) ベートーヴェン・テンプル

ここでは郵趣的重要度の“低い”か“ゼロ”および“不明なモノ”の例を挙げました。例 1) 及び例 2) はレピカージュ (Repiquage) で、普通葉書に広告などの私的印刷を加えているものです。FIP のルールでは、私的印刷部分を用いる事は不可なので重要度は”ゼロ”です。両例は、共に音楽と深い関係があり、魅惑的で使いたい誘惑に駆られます。市場でも、それなりの値段で取引されおり、誤解を招きやすいので要注意です。これと似たマテリアルに、私的官製ステーショナリー (仮訳: **Ganzsache auf Privatbestellung**) があります。これは私的な注文に基づき郵政当局が発行したものです。これは正統な郵趣マテリアルとみなされており、題材的に豊富で有用です。では一体レピカージュとの区別はどのようにつけるのでしょうか。ある世界展の審査員に尋ねたところ「カタログにあるモノは OK です」とのことでした。確かにドイツですとミヒェルおよび **Hanspeter Frech** 2 巻のカタログが完備しています。他の国についてはそれなりの調査が必要と思われます。

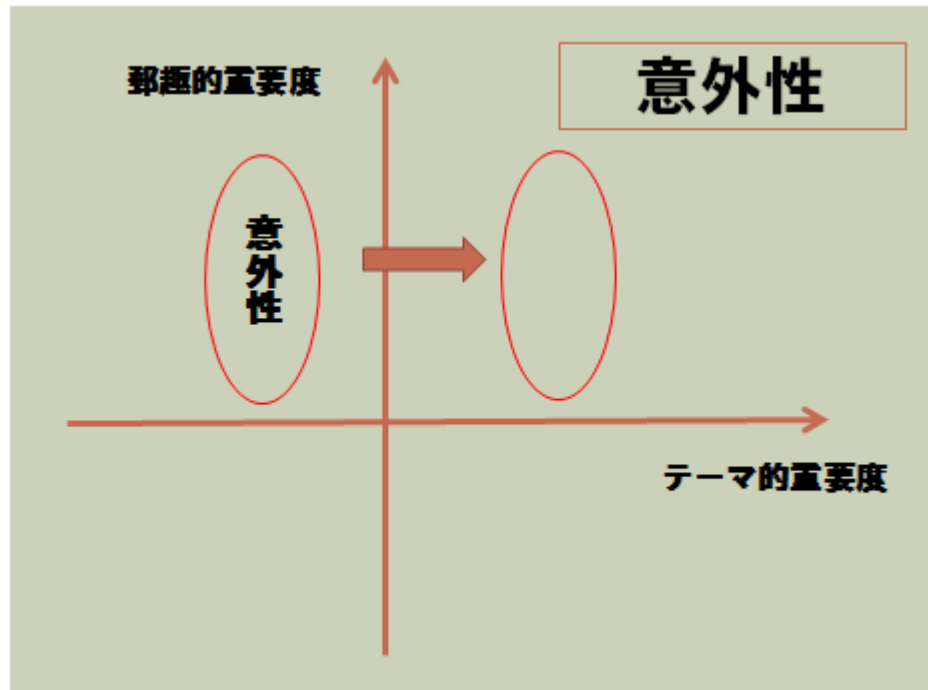
例 3) はカシエの部分に「ベートーヴェン・オルガン会社」とあり、テーマには魅力的に映りますが、これは封書に私的印刷を加えたもので重要度は“ゼロ”です。

例 4) は、**PHOTO ESSAY** です。これは応募したが採用されなかった切手のフォト・エッセイで、ドイツでは 1950 年代まで写真コピーを 5 枚ほど撮り保管していたと言われています。一般には「ボーダーライン・アイテム」とみなされ、他に表現する正統な郵趣マテリアルが無い時に、少数に限り用いる事が可能です。しかし素性の証明ができるか否か、フォトなので似たものが出来る可能性なしとはせず、審査員の意見が分かれる可能性が高いので、私個人としては、用いておりません。

例 5) は、郵趣家向け切手です。郵趣的重要度は低いのですが、ベートーヴェンとゲーテの邂逅の場面、「第九」の初演に出たソプラノ・ソリストの肖像は、これしか発行されていないので、私は少量に限り用い居ています。一般にこの手の疑わしい (dubious) 国の切手の多用は禁物です。

例 6) は、P-切手ですが、オーストリア郵政が私的注文による P 切手以外に、独自に P 一切手を発行した例をです。これをどう解釈するかは、まだ決まったルールは確立されていないように思われます。左は、ウォーホルによるベートーヴェンの肖像画で右は、バーデンにあるベートーヴェン神殿です。

II) 意外性について



第 2 図 意外性の考え方

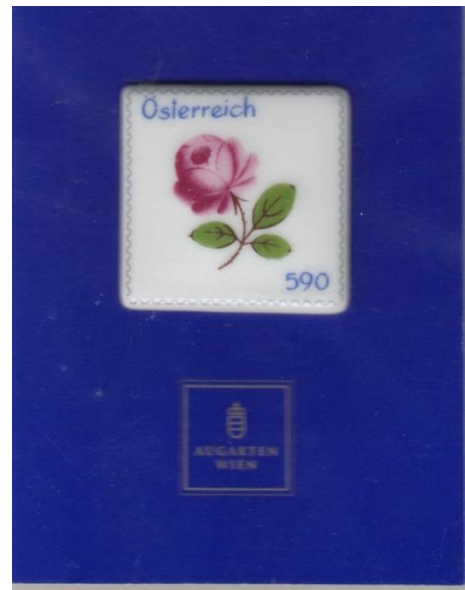
既に述べたとおりテーマティック作品の適正なマテリアルは、第一象限に入るモノに限られます。しかし第二象限に入っていて、一見、テーマとは無関係に見えるが、説明を読むと意外な関係があることが判るケースがあります。審査員の目を引くと共に、「なるほど」と納得させることが出来るなら、テーマティックな研究の成果と郵趣的な知識の両面をアピールできる利点があります。第 2 図をご覧ください。第二象限の楕円形に入るマテリアルが、説明を読むと意外と第一象限に移動しているケースです。具体的に 3 例を上げて説明をいたします。



例 7) バロン・モンテ (ビクトル・ユーゴ号)



例 8) 軍事郵便（暗号解読・ビスマルク号）



例 9) アウガルテン陶磁器切手

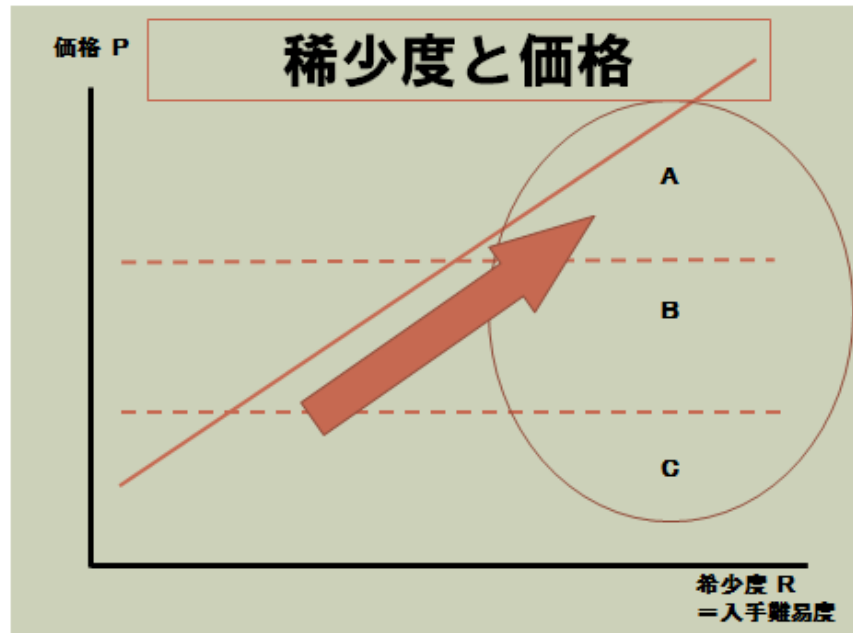
例 7) は、バロン・モンテ郵便の例です。1870-71 年に普仏戦争でパリがプロシア軍に包囲された時に、それを突破する通信手段として気球便が用いられました。合計 67 個の気球が飛び立ちましたが、それぞれにユニークな名称があり、その関連でテーマティックに活用できます。この例では、ロマン派の台頭の象徴としてビクトル・ユーゴを取り上げ、その表現としてバロン・モンテを用いたところ主任審査員のモレノさんから大層なお褒めの言葉を頂きました。政治家では、ワシントン、フランクリン、科学者では、ニュートン、ケプラー、トリチェリ、アルキメデス、ボルタ、文学者では、ユーゴ、ジョルジュ・サンド、発明家ではグーテンベルク、フルトンなどの有名人の名前が使われています。

例 8) は、戦艦ビスマルク号から送られた軍事郵便です。一見関連性が無い様に見えますが、ドイツの軍事郵便番号（FPN）を解読すると戦艦ビスマルク号からの郵便とわかります。このアイテムは、テーマ的関連もあり、また戦艦からの軍事郵便として、マテリアルの多様性に役立っています。

例 9) は、2014 年発行のオーストリアの陶磁切手「アウガルテン」です。ウィーンにあるアウガルテン陶器会社の建物は、ベートーヴェンの時代には「アウガルテン・コンサート・ホール」として知られ、1803 年にはここでベートーヴェンの演奏でクロイツェル・ソナタが初演された会場です。これも説明をつけるとテーマとの関連が明確ですが、一見、何故関係があるのか訝しがらるアイテムです。たまたまアウガルテンに関係のあるマテリアルを探していた矢先に、この特異な切手が発行されたので飛びついたというのが実情です。

例 7) -8) は、それぞれの主題で、関係のマテリアルを探していたところ EBAY の検索で発見できました。

III. 稀少度と価格の関係



第三図 稀少度と価格の関係

一般的に、稀少度の高低が、値段の高低に反映されると考えられます。しかしテーマティックでは、価格は低いが稀少度（＝入手難易度）が高いモノもあります。この関係を示したのが第三図です。縦軸に価格 P、横軸に稀少度 R を示しています。稀少度が絶対数が少ないとのニュアンスであるのに対し、入手難易度は絶対数があるが手に入りにくいニュアンスですが、ここでは両者を同じと捉えて論じます。稀少度を上げるとなると上図の楕円形に入るものがターゲットになります。これを A クラス、B クラス、C クラスに分類します。

A クラス：超希少品

例)



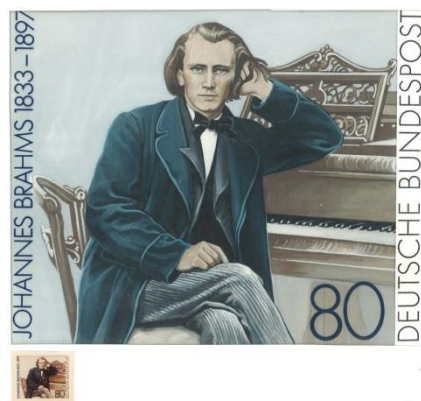
例 10) 公用切手



例 11) ヒンデンプルク事故カバー



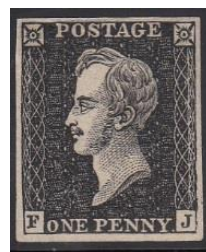
例 12) WIPA (FDC)



例 13) 原画 (ブラームス)



例 15) カタパルト便 (ワグナー楽劇シリーズ)



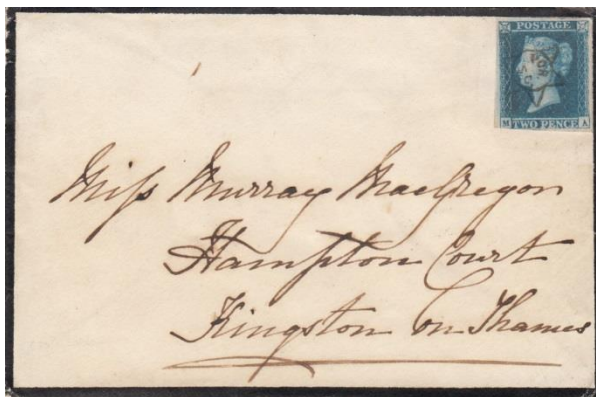
例 16) アルバート公エッセイ



例 17) プレフィラテリー (マリア・テレジア自署公用書簡)



例 18) 板東俘虜収容所実通:カバーと葉書(左)



例 19) ヴィクトリア女王自筆実通便



例 20) 段階毎のプルーフ

B クラス : 中級希少品



例 21) ハンブルク電車便 (モーツァルト)



例 22) 気送管便 (ステーションナリー)



例 23) 気送管便（速達便）



例 24) 鉄道駅便（鉄郵便とは別）



例 25) マルチ貼の実通 FDC（南アフリカ向）（ベートーヴェン・ライフマスク）



例 26) コロンビア航空便（SCADTA）



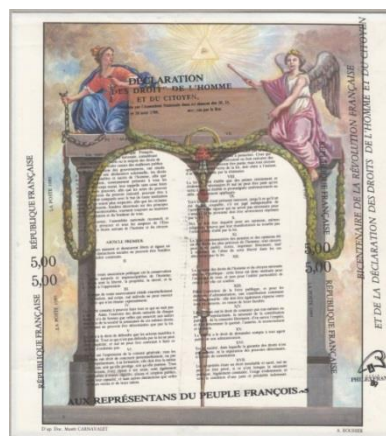
例 27) 目打ちエラー（ゲーテ）



例 28) 目打ちエラー (ザクセン国立歌劇場管弦楽団)



例 29) 印面ズレシート実通 FDC (シラー)



例 30) 印面ズレ (フランス人権宣)



例 32) 目打ちなしエラー実通 (チャイコフスキー)



例 31) 印面エラー (トルストイ)



例 33) IAA エラー (左側 :
日付の

C クラス：並級希少品



例 34) ベートーヴェ通り (ミュンヘン大学)



例 35) 楽譜出版社 (B&H)



例 36) ボン大学



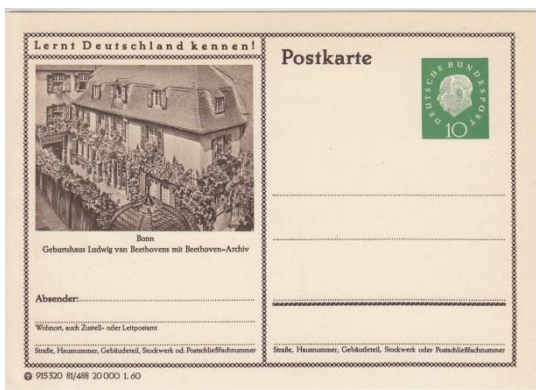
例 37) アン・デア・ウィーン劇場



例 38) ベートーヴェンのデスマスク



例 39) 「第九」の第四楽章より



例 40) ベートーヴェン生家 (ボン)



例 41) シェンブルン宮殿ウィーン

以上、Aクラス、Bクラス、Cクラスに分けて例を上げました。

Aクラスは、例 10) ～20) までです。これらの例は、郵趣家一般に広く知られた例であり、国際展に出した時に、審査員は一目で稀少品を理解できるので有利です。上級を目指すならこうしたハイレベルの多様な稀少品が各フレームに2～3点はあることが期待されます。

Bクラスは例 21) ～例 33) に示しました。これは説明をつけると審査員にも直ちに分かる中級希少品です。例 21) ハンブルクの電車便は、電車に設置された郵便ボックスに投函することで迅速な配達をするというユニークなものですし、例 22) ～23) は気送管便で、ベルリン市内に張り巡らされた気送管（シューター）で配達スピードを上げた例です。例 24) は新聞社の原稿を迅速に送達の特種サービスで、「赤枠」付で、鉄道駅で直接原稿を受け取れるのが特徴です。いずれもベートーヴェンか、彼に関連する音楽家のデザインが入った使用例です。例 25) はマルチ貼り適正レートで南アという珍しい仕向地の実通 FDC です。例 26) は、コロンビアの首都ボコタは急峻な高地にあるため、港町バランキリアから水上飛行機で運ぶという、今でいうベンチャー事業の新規郵便サービスの実通便です。これにもベートーヴェンの 20Pf 切手が一枚貼られています。例 27) ～例 33) は様々なエラー切手です。一目で目立つエラーを用いると審査員の目を引き、印象に残る有利さがあります。

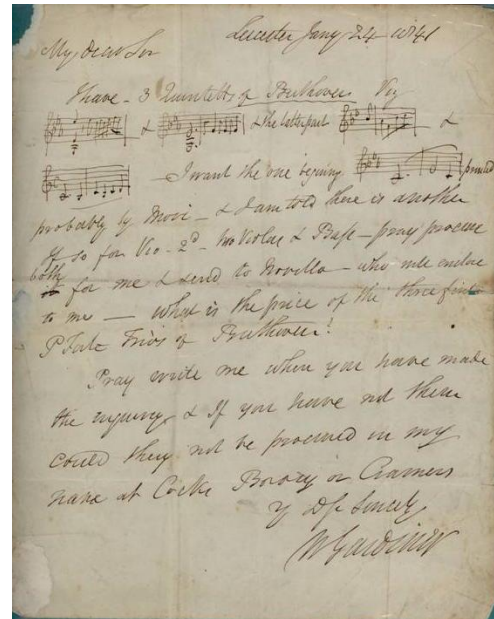
Cクラスの例は、例 34) ～41) に示しました。例 34)～37) は、メーター・スタンプです。日本では、富士に櫻を配した定番が多くヴァリエティが少ないのですが、欧米では図案の入ったものも多く多種多様でテーマティック素材の宝庫と言えます。例 38) ～39) は記念印ですが、これもご覧のように大胆なデザインが多く豊かな素材です。これらは比較的安価ですが、意外と入手が困難です。また例 41) ～42) は、ステーションナリーでこれも比較的安価に入手できますが、「いざ使用済みのより良いマテリアル」となると、意外に困難です。

今一度、第三図に戻ってください。以上を要約すると、ハイレベルの作品作りには多様で「稀少性」の高いゾーン、つまり楕円形で示した部分を探す地道な努力が必要です。Aクラスでは、フレーム毎に2～3点期待されると申しましたが、Bクラス、Cクラスのモノはリーフ毎に2～3点が期待されます。つまり至る所に何か目を引くものが入っているのが理想です。

テーマ面の研究を深めれば、ストーリーの枝葉も広がり、新しいモノを探せますし、郵趣的な研究を深めればそのモノを通じて、逆にストーリーに巾ができてきます。このストーリーとモノ、モノとストーリーの相互作用がテーマティックのもつ魅力といえます。

IV) 失敗事例に学ぶ

2005年に初めて海外に出展してから10年後の2015年に三回目の「大金賞」を頂きました。現在までに17回ほど海外あるいは国際展で出展しましたが、幾度も厳しいご指摘を受け苦い経験をしました。その失敗事例をいくつかご紹介しますので参考になればと存じます。



例 42) 私的ドキュメント

例 42) これはベートーヴェンを最初に英国に紹介したとされるレスターのガーディナーと言う人物の自筆の手紙です。1841年にロンドンの楽譜出版社に出した手紙で、ベートーヴェンの室内五重奏曲の楽譜が書き込まれています。英国の有名な音楽切手コレクターの遺品がオークションに出た時に、小生にとっては大枚を投じて買った思い出のある一品でした。私の海外の初戦は、2005年にルクセンブルクの欧州音楽切手展でしたが、審査員から、いきなり「これは私的ドキュメントです。郵趣的要素はブラックペニーとその消印だけで、音楽とは関連がありません」と手厳しい批評をもらい大ショックを受けました。確かに FIP のルールに従うとその通りです。その後、こりずに米国に持ち込んだところ「素晴らしい珍品だから、もっと目立つようにしなさい」と言われ、米国と欧州の考えの違いに二重のショックを受けました。テーマティックは欧州が主流ですし、審査員には欧州あるいはその影響を受けた人々が多いので、断腸の思いで取り下げました。

例 43) これはレピカージュの例です。ウィーンの街並みを表すに最適と思って使ったのですが、敢え無く「NO」の烙印を押され退散しました。例 44) は、例 43) と一見似ていますが、正統な郵趣品を認められている私的官製ステーションナリーです。



例 43) レピカージュ（オーストリア）



例 44) 私的官製ステーショナリー（ドイツ）

例 45) これは産業革命を表現するのに何か良いマテリアルが無いかと、あれこれ模索した末に、欧州と米国を結ぶ初期の蒸気船便（例 45）を選びました。”Per Steam Ship”と明記されています。残念ながら「このように多数どこにでもあるモノを用いるのは安易すぎる」と言われました 産業革命の影響ではあるものの、もう少し直接的な関係あるものを用いるべきとの意見です。その結果例 46) 1980 年の英国郵便制度 50 周年記念出でたステーショナリー “Uniform Penny Postage” の使用済みに取替えました。ここには 100 年前の郵便馬車で手紙を運ぶ速度は、時速 8 マイルであったが、今は時速 48 マイルであること、50 年前に比べて郵便料金は、2 シリング 6 ペンスであったものが、今は 1 ペンスと 30 分の 1 にまで下がったことが印面側に記されています。これぞ産業革命を象徴する郵便品と思いました。このように自分の感性にピタリのマテリアルを探した時に喜びは格別です。



例 45) 大西洋間の蒸気船便



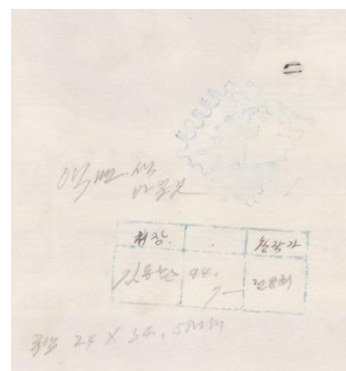
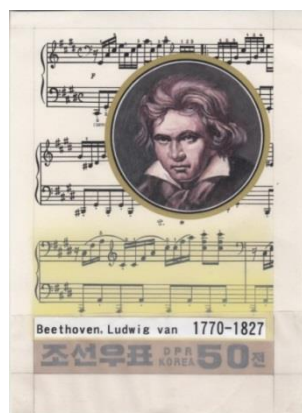
例 46) 産業革命を象徴する郵便品

例 47) これはベートーヴェンの先生アルベルヒツベルガーの切手ですが、スペースフィリングの目的で記念印を用いました。審査員は目ざとくこれを観察して「これはアルベルヒツベルガーが洗礼を受けた教会のデザインだが、これはベートーヴェンとどう関係するのか」と鋭い質問を受けました。確かにある主題を追いかけてついつい枝葉に入り過ぎることがあります。ストーリーを展開する時には、常に、ベートーヴェンとの直接的関係を念頭に置くべきと大いに反省させられました。



例 47) 枝葉に入り過ぎた悪例

例 48) 二枚の原画：これは 1994 年に北朝鮮で発行されたベートーヴェンの名曲「月光」の一部が入った切手です。原画を手に入れて国際展に出したところ審査員から首を傾むけられました。案の定、知人のベートーヴェン収集家から「実は自分も同じものを持っているが・・・」という連絡がありました。購入先に連絡をとったところ「これはセカンド・オリジナルで、国際展に出すのは全く問題ない」との返事が来ました。



例 48) セカンド・オリジナル？とその裏面

北朝鮮では切手をどのような手順で制作するのか調査しておりませんが、同じ原画が二枚存在するのも不可解である上に、審査員の意見が分かれそうなマテリアルなので、慎重に構えて現在は使用をしておりません。

その他、原画の配置に関する留意事項、稀少性の向上への指摘事項、真正度に関する疑問、軍事郵便のカシエの利用などについても触れましたが、ここでは省略させていただきました。

以上を要約しますと、ハイレベルの入賞を目指すのであれば、マテリアルの多様性を目指すとともに、重要度の高いものを探さねばなりません。重要度の高さは、稀少度が鍵となるため、稀少度の高い物を探し、モノを入れ替える不断の努力が求められます。

以上、私なりの個人的な見解を披露しましたが、常に「自分で考え、自分で決める」事が大切です。この補論が、皆様の考え方の刺激の一助になれば、幸いです。 以上